

## 香港におけるケアフード（介護食）ビジネスの展望

兵庫県香港経済交流事務所 所長 小木曾 弘康

### 1. 香港における高齢化の現状と今後

香港では高齢化が急速に進んでいます。2024年時点で65歳以上人口は約171万に達し、総人口(約752万人)の約22.7%を占めています。これは2015年と比べて、約58万人、7.3ポイントの増加にあたり、アジアでは、日本(29.8%、2024年)に次ぐ高齢社会となっています。

平均寿命は男性83歳、女性88歳(2024年)と世界でもトップクラスであり、高齢化は今後さらに進展すると予測されています。香港政府の推計では、2046年には高齢者人口が総人口の約36%に達する見込みです。(出典：世界銀行、香港政府統計處)

高齢者の増加に伴い、嚥下障害を抱える人の割合も高まっています。これは「誤嚥防止」と「栄養確保」の両面で重要なテーマとなっており、ケアフード(介護食)の需要拡大につながっています。

### 2. 香港でのケアフードの普及

香港社会服務連合会(HKCSS)は、嚥下障害を抱える高齢者の増加に対応するため、「ケアフード基準ガイドライン」を策定し、ケアフードの普及を推進しています。香港におけるケアフードの状況について、HKCSSの高齢者服務部門長のJim C. H. Cheung氏にお話を伺いました。

#### —HKCSSの活動について

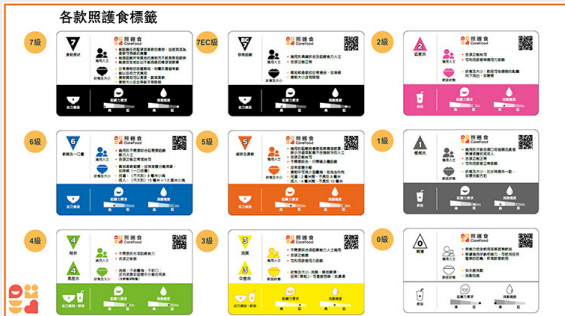
HKCSSは1947年に設立され、現在510の加盟機関を有する香港最大の社会福祉ネットワークです。高齢者、障害者、生活困窮者などを対象に支援を行っています。HKCSSは政府、産業界、学術機関と連携し社会的課題を解決するプラットフォームとしての役割を果たしています。

#### —「ケアフード基準ガイドライン」策定の経緯について

HKCSSの調査では、高齢者の40%、介護施設入居者の60%が嚥下障害を抱えています。香港社会の高齢化に伴い、ケアフードの需要が拡大しています。ケアフードは栄養補給にとどまらず、「尊厳ある食生活」を支える重要な役割を担っています。

しかし、香港にはケアフードに関する統一基準がなかったことから、介護者等が食品選びや食事の準備に困難を感じていました。そこで、医療機関、介護施設、食品メーカー、レストランなど多様な関係者と議論を重ね、2020年に国際嚥下食事標準化構想(IDDSI)をベースに、香港の食文化や調理習慣を反映した「ケアフード基準ガイドライン」を策定しました。

#### ケアフード基準ガイドライン



(ケアフード関連 HP: <https://www.carefood.org.hk/>)

#### —ケアフード基準ガイドライン策定後の状況について

ガイドライン策定後、HKCSSでは「ケアフードプロジェクト」として、レストランや食品メーカーに働きかけ、ガイドライン

準拠商品の開発を進めています。現在200店舗以上のレストランがプロジェクトに参加し、嚥下困難者が「同じテーブルで同じ料理」を楽しめるよう工夫されたメニューを提供しています。今後は、食品メーカーと低価格・高栄養の商品開発を進め、ケアフードを社会に受け入れられる食文化へと発展させたいと考えています。



レストランでのケアフードメニュー

#### —日本企業に期待することは

香港では日本食の人気が高いため、日本食での低価格・高栄養の商品開発を進めてほしいと思っています。また、日本では「ユニバーサルデザインフード(UDF)」を基準にしていることから、多くの日本製ケアフードはラベルにUDFの基準を表示しています。香港ではIDDSIをベースとした「ケアフード基準ガイドライン」が普及しているため、食品ラベルにはIDDSI基準での表示をお願いしたいと考えています。医師がIDDSIの基準に基づいて食事指導を行うため、基準表示は非常に重要です。

さらに、香港で日本産食品を多く扱う大手スーパーのバイヤーにもお話を伺いました。

#### —ケアフードの取り扱い状況について

香港の消費者は品質と安全性を非常に重視しており、当社では日本製のケアフードを多く取り扱っています。年々売上は増加しており、今後も取り扱いを拡大していきたいと考えています。

#### —今後取り扱いたいケアフードについて

今後は味や見た目だけでなく、機能性を加えたケアフードの需要が高まると考えています。高齢者が必要とする栄養素を補い、健康維持や疾病予防につながる商品は、大きな需要を生むと考えています。



大手スーパーでのケアフード販売の様子

### 3. 兵庫県企業のビジネスチャンス

兵庫県には高度な食品加工技術を持つ企業が多く、香港のケアフード市場において、①家庭向け販売、②介護施設向け販売、③レストランとの共同開発、④香港社会服務連合会(HKCSS)との共同研究などの展開が期待されます。

特に機能性ケアフードの開発は香港市場で強い競争優位性を持ち、シルバー経済の拡大に伴い大きなビジネスチャンスとなると考えられます。栄養バランスや安全性を重視しつつ、心理的満足感を提供できるケアフードは、香港の消費者から高く評価されると思われます。

ひょうご海外ビジネスセンターは、兵庫県が世界3か所に設置する兵庫県海外事務所と連携して、県内企業の海外ビジネス展開を支援しています。本通信は、各海外事務所から寄せられる現地トピックスをお届けするものです。

【発行 公益財団法人ひょうご産業活性化センター ひょうご海外ビジネスセンター】